

縫いぐるみロボット完成

すだちくん

着物リメイクやゆるキャラのデザインを手掛けるアゲイン（石井町）が、県のマスコットキャラクタ―すだちくんの縫いぐるみロボットを作った。しゃべったり手を動かしたりすることができ、主に店舗の販促用として、来年早々にも商品化する。

アゲイン（石井）が開発



すだちくんロボットは高さ53センチ。鉢巻きや法被、印籠を身に付け、阿波踊りの踊り子に扮しており、電子回路基板を内蔵した15センチ四方の台に載せて飾る。握手するとスイッチが入って手が動き、「いらっしやいませ」など、吹き込んだせりふをしゃべる。印籠に入れたLEDも点滅する。土産物店、銀行などの店舗や空港、駅などの公共施設での利用を想定。

アゲインが開発したすだちくんの縫いぐるみロボット。石井町の同社

店舗の販促・PR用に

注文を受けた後で、それぞれに合った衣装を着せ、せりふを録音して仕上げる。販売価格は検討中。

約20年前からすだちくんの縫いぐるみを製造販売しているアゲインは、販路拡大を目指して「ロボット版」の製作に着手。基板の開発などで徳島大と県立工業技術センターから協力を得た。28日から3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開かれるテーマパークEXPOに出品する。

稲実房子社長は「英語や中国語のせりふを吹き込んだり、革製の高級パーションにしたりして、海外展開も考えたい」と話している。（久保高茂）